

淡島千景

資料を紹介する — 宝塚歌劇の考古学に向けて —

羽 鳥 隆 英

本論は早稲田大学演

二〇一六年度共同研究
五輪・野球』の成果報
隆英（新潟大学）、分
（立教大学）、山梨牧子
〇一六年度当時——の
のご厚志の下、早稲田
博物館」——に寄贈さ
の遺品、通称「淡島千
〇〇〇点とも推定され
タル化とデータベース
舞踊学校Ⅱ宝塚歌劇団
取り巻く資料約四〇〇
的な研究への助走に代
六mm映像の考証など、
WS LETTER』
(<http://www.waseda.jp>)

「連携研究拠点——以下「拠点」——

「景資料の多角的研究 宝塚・映画・
共同研究の構成員は代表者の羽鳥
坂安希（早稲田大学）、河野真理江
大学）——（一）内の所属機関は二
中心目的は二〇一二年、ご遺族
博士記念演劇博物館——以下「演劇
淡島千景（一九二四年—二〇二二年）
の基礎的な調査である。今回は約三
品中、一年間の研究期間を通じ、デジ
化した資料、すなわち宝塚音楽歌劇／
「宝塚」——に在籍中の淡島千景を
以下「宝塚資料」——を紹介し、本格
なお淡島千景が個人的に撮影した一
紹介する以外の研究成果は拠点「NE
や拠点HP「共同研究」内の報告欄
(<http://odo-enpaku/research/H28.html#04>)

を参照されたい。^①

具体的な報告に入るに先立ち、共有すべき情報を確認する。初めに淡島千景の八八年間の生涯を簡単に振り返る。淡島千景は一九二四年二月二十四日、現在の東京都大田区に生を享けた。本名「中川慶子」である。一九三九年に宝塚音楽歌劇学校に入学し、一九四一年に宝塚歌劇団に入団すると娘役を中心に花形の座に躍り出る。一九五〇年に映画界に転身し、豊田四郎『夫婦善哉』（東宝、一九五五年）、小津安二郎『早春』（松竹、一九五六年）、清水宏『踊子』（大映、一九五七年）、内田吐夢『酒と女と槍』（東映、一九六〇年）など、現代劇と時代劇を問わず、また大手映画各社の閉鎖性を軽々と越えつつ話題作に主演する一方、テレビドラマにも早々に進出し、NHK大河ドラマ第一作『花の生涯』（一九六三年）、第二作『赤穂浪士』（一九六四年）にも中心的な役柄を演じる。映画界が産業的に退潮した一九七〇年代以後は商業演劇とテレビドラマを中心に活躍し、現役を貫いたまま二〇一二年二月一六日に死去した。幕末の大老井伊直弼の間諜村山たか、坂本龍馬などの反体制派の志士を庇護した京都・伏見の船宿寺田屋の女将お登勢と幕末Ⅱ明治維新の女

性達を当り役に持ち、映画・演劇・テレビドラマと媒体を越えつつ演じ続けた。

次に『淡島千景資料の多角的研究 宝塚・映画・五輪・野球』におけるデータベース化の工程を説明する。早稲田大学構内の収蔵庫に保管される淡島千景資料を拠点共同研究室に一時的に移動し、資料毎に資料名とAWA以下一〇桁（大分類七桁＋小分類三桁）——但しデジタル化した場合は資料一点に対し、例えば表面の画像一点、裏面の画像一点などと複数のデータが発生し得るため、さらに下位に二桁を付加し、データ毎に一・二桁——の資料IDを付与すると同時に、演劇博物館の様式を参照しつつ調査結果をMICROSOFT EXCELに入力する。以上が基本的な流れである。遺品中、演劇・映画・テレビドラマなどの生成過程を記録した書入台本は特に学術的な関心を惹起する資料であるが、共同研究の開始以前に演劇博物館図書室によるデータベース化が始動し、早稲田大学蔵書検索WINE OPAC (<http://wine.wul.waseda.ac.jp/>) にも登録済のため、今回の調査対象には含まれない。また前述のNHK大河ドラマ第一作『花の生涯』台本は拠点「機能強化支援事業」を通じて、演劇博物館における限定デジタル公開が試行中である。今回は二〇一二年の寄贈当時、筆者が演劇博物館助手（映像学）に在職し、淡島千景遺品の遺品を前述の収蔵庫に搬出入した経験を起点に、資料の希少性や脆弱性、あるいは演劇博物館の常設展「映画・テレビ」における「淡島千景特集」への活用可能性などを総合的に勘案しつつ調査対象を選抜し、最終的に計六二五件のデータを整備した。内訳は宝塚資料四〇五件（大分類〇〇〇〇〇〇〇一）、広告類九一件

（映画四件＋演劇八七件／大分類〇〇〇〇〇〇〇二）、写真帖二三件（大分類〇〇〇〇〇〇〇三）、切り抜き帖六二件（大分類〇〇〇〇〇〇〇四）、書画類五件（大分類〇〇〇〇〇〇〇五）、楽譜類七件（大分類〇〇〇〇〇〇〇六）などである。但し宝塚資料四〇五件は撮影したデジタル画像数であり、他資料と同様にAWA以下一〇桁（大分類七桁＋小分類三桁）を基準に計算し直せば三六五件である。

最後に宝塚資料の由来を確認する。宝塚資料には演劇博物館に寄贈される以前、恐らくは付人などの助けを借りつつ、最晩年の淡島千景自身が整理し直した形跡が認められる。例えば資料【AWA〇〇〇〇〇〇〇一三四】は一九四六年三月？二四日付の兵庫・宝塚歌劇団発／滋賀・中川良之助——東京生れの淡島千景Ⅱ中川慶子の京阪神における保護者的な存在か？——宛の封筒であるが、表面には「給料改正 H二一年みる」と黒インクの書入が見られる。また資料【AWA〇〇〇〇〇〇〇一三六二】は東京・秦豊吉（東京宝塚劇場社長）発の封筒であるが、表面の宛名「特賞 淡島千春殿」に対し、裏面に「これはひどい 平成二一年みる 名前違いを発見」と同様の書入が読み取れる。こうした書入に鑑みても、米寿を目前に控えた二〇〇九年前後の淡島千景が自身の青春とも呼ぶべき宝塚当時を懐古しつつ、一点一点、資料を整理し、現在の宝塚資料の原形にまとめ上げたのは疑い得ない。特に後述の膨大な給与明細の調査に際し、淡島千景自身の整理と書入が考証の指針を提供した事実を特記する。以下、この事実を念頭に宝塚資料の内実に分け入る。

一・宝塚音楽歌劇学校を受験する

宝塚資料には淡島千景が宝塚に所属する以前の資料も含まれる。

資料【AWA〇〇〇〇〇〇〇〇一―一二二】は宝塚音楽歌劇学校の受験用に作成されたと推定される履歴書である。ご遺族の了解の下、演劇博物館に寄贈されたとは言え、個人情報を含む資料であり、慎重な取扱が必要である。今回は幼少期の芸事を巡る部分に限定し、以下に記載を引用する。

昭和三年七月 日本舞踊水木流ヲ水木歌橋ニ付始め

昭和八年四月 學業ノ爲廢ス

昭和九年九月 東京童話劇協會ニ入會ス

昭和十年十二月 女學校入學ノ爲廢ス

昭和十年九月 マスターオブアーツ梅澤時子ニ付キ始め

なお淡島千景の聞書に付された年譜の場合、「水木流名取・水木歌橋に師事し、日本舞踊を習い始める」のは一九二七年であり（鷺谷三八五）、履歴書と時間差が認められる。

資料【AWA〇〇〇〇〇〇〇〇一―一二四】は宝塚音楽歌劇学校の受験票である。表面には「受験番號 第二〇五三番」の記載が見える^④。以下は裏面「受験心得」の引用である。

受験 心得

一、本書を以つて受験料領収の證とします

一、試験場 東京市芝區芝公園五號地ノ十二 東寶寄宿舎

一、試験日割

三月二十二日 午前九時より 實科試験（聲樂、ダンス舞踊の適否）、口頭試験

三月二十八日 午前九時より 學科試験、健康検査

一、第一日の試験の合格者のみ次の試験を受ける事

一、試験當日は試験開始三十分前迄に指定の試験場前受付に必ず集合して下さい、遅刻者は理由の如何に拘らず受験出来ません

一、受験證を受付に提出し受験番號と同じ番號札を受取る事、番號札はどの試験の時も常に胸に着けて居て下さい

一、試験當日の携帯品

上草履（上草履は附添人も携帶の事）、新聞紙（下駄、靴を包む）、風呂敷（試験の時に衣類を包む）、辨當、鉛筆、

小刀、消ゴム

一、學科試験以外はすべて着物を脱がねばなりませんから海水着（なるべく黒色）を用意して来て下さい、着物を脱げば風呂敷に包んで各自始末する事

一、學科試験以外はすべて番號順に行ひますから各自の順番を間違えぬ様十分氣をつけて下さい、すべての試験がすめば順次歸宅する事

一、合格者發表は四月一日の豫定です（電話にての問合せにはお答へしません）

一、控室の設備不十分にて相當混雜する事と思ひますから豫め御了承の上附添人は受験者以外のお子達を連れて來ない様にして下さい

昭和十四年二月

なお表面の右下には「一時」と薄く鉛筆の書入が読み取れる。試験開始時刻が変更されたのか、一九三九年四月一日「合格者発表」開始時刻を指すのか、後続の研究に俟ちたい。

二、宝塚音楽歌劇／舞踊学校に修業する

一九三九年、見事に入試に合格した中川慶子は宝塚音楽歌劇学校——同年十二月に宝塚音楽舞踊学校に改称（鷲谷 三八八）——に入學する。淡島千景の宝塚資料には二年制、三学期制の同校が各学期末に保護者宛に発行した六点の成績通知が含まれる。資料【AWA○○○○○○一―一二六】は一九三九年七月二日付、資料【AWA○○○○○○一―一二七】は同年二月二八日付、資料【AWA○○○○○○一―一二八】は一九四〇年三月二〇日付、資料【AWA○○○○○○一―一二九】は同年七月付、資料【AWA○○○○○○一―一三〇】は同年二月二五日付、資料【AWA○○○○○○一―一三一】は一九四一年三月一九日付であり、発行は前二点が「寶塚音楽歌劇学校」、後四点が「寶塚音楽舞踊学校」である。また中川慶子の所属は前三点が「豫科B組」、資料【AWA○○○○○○一―一三一】が「本科」、残る二点には記載が見当らない。前述の履歴書と同様、学業成績も取扱に慎重を期すべき個人情報であるため、今回は「淡島は、宝塚の学校で歴史に残る成績のいい人だった、ということ語りがれてるんだね（笑）」との関係者の指摘通り（淡島 二三）、一九四〇年度の三学期間を通じ、中川慶子が席次一番に座り続けた事実——【AWA○○○○○○一―一二九】は「十七人中一番」と母数も明記——に加え、成績評価に付き

れた科目を一覧に整理し、宝塚修業の輪郭を描出するに止めたい。（）内は各学期の成績評価の対象外と推定される科目、また□内は筆者の補足である。

・資料【AWA○○○○○○一―一二六】

学科：修身・公民・歴史・国語・英語・作文「作法？」・（地理）・

楽理・（風俗史）

技術：声楽・舞踊・ダンス・（タップ）・ピアノ・朗読

・資料【AWA○○○○○○一―一二七】

学科：修身・公民・歴史・国語・（英語）・作法・地理・楽理・

（風俗史）

技術：声楽・舞踊・ダンス・（タップ）・ピアノ・（朗読）

・資料【AWA○○○○○○一―一二八】

学科：修身作法・公民・国語・地理歴史・英語・楽典

術科：声楽・ピアノ・洋舞踊・和舞踊・（朗読）

・資料【AWA○○○○○○一―一二九】

学科：修身・作法・公民・国語・（歴史）・（地理）・英語・朗読・

体操・楽典

術科：声楽・器楽・洋舞踊・和舞踊

・資料【AWA○○○○○○一―一三〇】

学科：修身・作法・公民・国語・歴史・（地理）・体操・（英語）・

朗読

術科：声楽・器楽・楽理・日踊・洋踊

・資料【AWA○○○○○○一―一三一】

朗讀

術科…声乐・器楽・楽理・日舞・洋舞

なお資料【AWA○○○○○○○—一二九】には「備考 各科五十點以上平均六十點以上ヲ以テ合格トス 學科一、術科二、ノ割合ヲ以テ總平均ヲ出ス」、また資料【AWA○○○○○○○—一三二】にもほぼ同文の注記が認められ、座学と実技の比重が垣間見える。

成績通知に加え、中川慶子の宝塚修業の一端を窺わせるのが資料

【AWA○○○○○一―一三三】すなわち宝塚音楽歌劇学校が発行した「學校家庭通信簿」である。管見の限り、現存するのは中川慶子が予科B組に在籍中の一九三九年度版一点であるが、本科に進級後の一九四〇年度版は散逸したのか、あるいは予科に在籍中に限り、學校家庭通信簿が発行されたのか、後続の研究に俟ちたい。二つ折り四頁の最終頁の注意書を引用する。

◇生徒登校の際は必ず携帯する事

◇**歸宅の上は必ず保護者に提示する事**

◇欠席遅刻早退其他保護者より學校へ申告すべき事項は總て「事項」

欄に記入捺印の事 學校より保護者へ通告すべき事項と同じ

三. 給与を受け取る

前節の流れを受けつつ、宝塚の給与明細に視線を転じよう。給与明細は宝塚資料全体の三分の一に迫る計一八点と膨大であり、ま

た資料中に発行年が見当たらないため、考証の難度は高い。最終的に全点の発行年月をデータベース化し得たのは、前述の淡島千景自身書の整理と書入を参照しつつ、一八枚を一枚また一枚と時系列に並べ直した結果である。例えば資料【AWA〇〇〇〇〇〇〇一—三四九】は表面の右上に「B」、中に「中川慶子殿（九月分）」、左に「◎現金は必ず其の場で調べて下さい。 ◎各自の給料、手當、賞與等は絶対に秘密をお守り下さい。」と記載された小型の封筒であるが、「一四年九月ヨリ四ヶ月分」と黒インキの書入が読み取れるため、内部に収納された四点の資料【AWA〇〇〇〇〇〇〇一—〇〇〇〇〇一—資料【AWA〇〇〇〇〇〇〇一—〇〇四】——実際に九月分—二月分の給与明細——は一九三九年九月分—二月分の給与明細と同日し得る。二〇〇九年前後の淡島千景が宝塚音楽歌劇学校予科B組——封筒表面の右上「B」に対応——当時の一九三九年九月分の給与明細の封筒を再利用し、同年中の給与明細四点を収納し直したに違いない。こうした手掛りに加え、給与明細の項目や金額、紙質の連続性などを総合的に勘案し、全点の発行年月を同日した。管見の限り、一九四〇年八月分・九月分、一九四二年八月分、一九四九年八月分を除き、一九三九年九月分—一九五〇年一月分が現存する。

給与明細の詳細も個人情報に属するため、今回は具体的な金額などには触れず、以下の二点を指摘するに止めた。第一に中川慶子への給与が遅くとも宝塚音楽歌劇学校予科B組に在学中の一九三九年九月には支払われ始めた点である。実際、前述の一九三九年九月分の給与明細の封筒には、二〇〇九年前後の淡島千景自身の書入と

推定される「はじめていたゞいた お手あてです」——「た」は「多」の崩し字——との鉛筆の走書が薄く読み取れる。とは言え、給与明細を時系列に精査すれば、宝塚音楽歌劇／舞踊学校在学中は収入と天引きの「寄宿舎代」がほぼ同額に設定され、中川慶子への「差引支給額」は僅かである。第二は資料【AWA○○○○○——〇六九】を見る限り、一九四五年八月分——〇月分の給与が一括払された点である。宝塚資料の給与明細を見渡しても、こうした事例は例外的である。当時、中川慶子は淡島千景の芸名の下、すでに宝塚歌劇団に活躍中であるが、敗戦後の社会的、経済的な混乱が遅配を生じさせたのか、あるいは淡島千景が長期間の巡業などに参加した結果、個人的に受取が遅れたのか、後続の研究に俟ちたい。

四、化粧道具を買い揃える

給与明細が収入を巡る資料であれば、宝塚資料には淡島千景の女優業に不可欠の支出を巡る資料も現存する。資料【AWA○○○○〇〇〇——一三八】は「兵庫縣川邊郡寶塚榮町 電話寶塚五三九番」の榮屋化粧品店が中川慶子宛に発行した二枚綴の請求書である。以下に品名欄と金額欄の書入を整理する。便宜的に通し番号を振り、「セイタヒ」を「青黛」、「ホー紅」を「頬紅」など、品名欄のカタカナは漢字に書き改めたが、「リ」と「ッ」の判別が困難な場合などは「？」を付した。金額欄には通貨単位「円」「銭」を補足した。

①鏡	五五銭	②化粧皿	七〇銭
③缶々	一円一〇銭	④水入	五三銭

⑤リピン?	一円〇五銭	⑥リリシン?	八五銭
⑦入れ物	二五銭	⑧砥粉二本	二〇銭?
⑨板刷毛	四三銭	⑩〃	三七銭
⑪〃	三二銭	⑫水刷毛	五五銭
⑬〃	三四銭	⑭刷毛	二五銭
⑮パフ大	三六銭	⑯〃小	二二銭
⑰京紅	八〇銭	⑱粉白粉	四五銭
⑲ドーラン	五〇銭	⑳青黛	二〇銭
㉑筆大	四五銭	㉒〃中	二五銭
㉓〃小	一〇銭	㉔牡丹刷毛	二円四〇銭
㉕花立て	三二銭	㉖頬紅	五〇銭
㉗茶墨	三〇銭	㉘油墨	三〇銭
㉙油紅	三〇銭		
⑧の金額が二〇銭か二五銭か判別が困難であるが、二〇銭の場合は計一四円九四銭、二五銭の場合は計一四円九九銭であり、実際の請求額一五円〇四銭とは五銭——〇銭の差額が発生する。差額の由来は不明である。とは言え、請求額一五円〇四銭は資料【AWA○○○○〇〇〇——一〇一九】、すなわち淡島千景が宝塚歌劇団に入団した直後の一九四一年五月分の給与明細に残る「化粧」代の天引き額と一致する。請求書の発行年月日は空欄であるが、宛名が「中川慶子」である点、また粉白粉や頬紅などの消耗品と板刷毛（三種）や筆（大中小）などの備品のまとめ買いである点に鑑みても、中川慶子が宝塚音楽舞踊学校を修了し、宝塚歌劇団の淡島千景に変貌する節			

目に際し、恐らくは宝塚御用達の化粧品店を通じ、新たに化粧道具一式を買い揃えた記録と見なすのが自然である。逆に見れば、この請求書は当時の宝塚女優の一本立ちに必要な化粧道具の構成を窺わせる点が貴重である。

五、巡業先の大入袋を受け取る

宝塚歌劇団に入団した淡島千景は花形の座に躍進する。今度は在団中に配布されたと推定される大入袋を整理しよう。以下の五点である。判読困難な箇所は「？」を代入した。

- ・資料【AWA○○○○○○一―二〇四】「康徳九年一〇月二一日」付「撫順市東七條通り二八 蜂谷慰安社 電話二九四九番」発行
- ・資料【AWA○○○○○○一―二〇五】「海外引揚者和歌山縣厚生會田邊支部」発行
- ・資料【AWA○○○○○○一―二〇六】「鳥羽町 朝日座 中？ 古興行部 電話一四七番」発行
- ・資料【AWA○○○○○○一―二〇七】「新宮市浮島 浮島劇場 電話三九一」発行
- ・資料【AWA○○○○○○一―二〇八】

淡島千景が「満洲国建国一〇周年慶祝使節団の一員として、中国東北地方（当時の「満洲国」）に出張したのは一九四二年であるため（鷲谷 三八九頁―三九〇頁）、資料【AWA○○○○○○一―二〇四】は同出張中——「康徳」は満洲国の元号であり、康徳九年は西

暦一九四二年に相当——の撫順公演後に配布された大入袋である。なお同出張に際し、宝塚歌劇団が保護者宛に発行した通知状である資料【AWA○○○○○○一―一三四】も宝塚資料に含まれる。以下に全文——「中川慶子」「九〇」以外は印字——を引用する。

昭和十七年九月

寶 塚 歌 劇 團
理事長 林 藤之輔

生徒 中川慶子 保護者殿

拜啓 殘暑之候御家庭の皆々様益々御清榮之段御慶び申上げます

扨而今回滿洲建國十周年日本慶祝會後援にて別紙日程表の通り滿洲朝鮮公演を致す事になりましたから何卒御諒承願ひます

追而出張中の御小遣として左記御本人に御渡しいたします

一金 九〇 圓

（別紙日程表は御本人に御渡ししてあります）

管見の限り、宝塚資料に「別紙日程表」は見当たらないが、淡島千景自身が記憶する巡業先は旅順や「新京、撫順、奉天、ハルビン」などである（淡島 一七―一八）。「滿洲朝鮮公演」の直前、一九四二年八月の「東京寶塚劇場花組出張公演」前に「生徒 中川慶子 保護者殿」宛に発行された同様の通知状である資料【AWA○○○○○○一―一三三】も現存するため、少なくとも一九四二年当時、こうした通知状の発行は通例と見られる。

続く三点の大入袋に視線を転じよう。発行者を巡る情報を見る限

り、資料【AWA○○○○○○一〇二〇五】は現在の和歌山県田辺市、資料【AWA○○○○○○一〇二〇六】は現在の和歌山県鳥羽市、資料【AWA○○○○○○一〇二〇七】は現在の和歌山県新宮市の公演と推定される。淡島千景の聞書には、戦中期に「兵隊さんの慰問に行く」ために「関西周辺」[「…」和歌山とかそういうところ]を巡業した際の回想が登場するが（淡島 一七）、「海外引揚者や和歌山縣厚生會田邊支部」発行の事実に鑑みれば、少なくとも資料【AWA○○○○○○一〇二〇五】は敗戦後の大入袋と推定される。資料【AWA○○○○○○一〇二〇八】は発行年月日も発行者も記載が見えず、考証の手掛りは皆無である。

以上、淡島千景の宝塚資料の内実を駈足に紹介した。無論、本論に取り上げたのは一部である。とは言え、中川慶子が淡島千景に変わって描出されたのは一端は描出し得たはずである。共同研究の成果が未来の淡島千景研究、並びに宝塚研究の活性化に繋がれば幸いである。

註① 二〇一六年二月一七日、東京国立近代美術館フィルムセンター小ホールを会場に開催した公開講演「淡島千景と幕末の女性達」も共同研究の一環である。淡島千景の主演映画『螢火』（五所平之助監督／一九五八年）を上映後、筆者が聞き手を担当し、新国劇出身の笠原章（一九四八年）に淡島千景の想い出をお聞きした。講演の大詰には新国劇の島田正吾（一九〇五年―二〇〇四年）が淡島千景に宛てた書簡——淡島千景が笠原章に譲渡——が朗読された。以下に文字起しする。引用中の

「若獅子」は一九八七年に新国劇が事実上の解散を決議した際、笠原章を代表に一部の座員が結成した劇団、「演舞場」は淡島千景と林与一が特別出演した若獅子公演（東京・新橋演舞場／一九九二年）を指す。

残暑お見舞い申し上げます。この度は若獅子会のために力添えをしてくださって、深く感謝申し上げます。私、目下テレビの仕事できわめて多忙ですが、演舞場の折、あるいは拝見できるかも知れません。その旨、与一君にもお伝えくださいませ。ともあれ御礼を申し上げます。草々

島田正吾

平成四年八月二六日

淡島千景様

追伸。「利休夫人の企て」近頃になく面白く読ませていただきました。おりきは誠に遣り甲斐のある大役で、もし私が女優ならば…そんな思いに駆られました。上演できるのを楽しみにいたします。

註② 詳細は拠点HP「機能強化支援事業」内の「草創期テレビ台

本のデジタル化」紹介欄 (<http://www.waseda.jp/pj-kyodo-enpaku/enhancement/H28-3.html/>) を参照せよ。

註③ 展示「淡島千景特集」の全体構成は演劇博物館公式HPの常設展『映画・テレビ』紹介欄 (http://www.waseda.jp/enpaku/ex/ex_cat/permanent/) 上側の写真を参照せよ。

註④ 資料【AWA○○○○○一―一二四】デジタル画像は拠点

HP「共同研究」内の報告欄 (<http://www.waseda.jp/prj-kyodo-empaku/research/H28.html#04>) を参照せよ。

註⑤ 参考に淡島千景と同世代の女優の回想を引用しよう。一人目は従弟に当る剣劇映画の花形嵐寛寿郎の独立プロに入社した森光子（一九二〇年―二〇二二年）の場合である。

竹中「労」 森さんの寛プロ入りは、たしか昭和一〇年でしたね。

森光子 はい、『なりひら小僧』春霞八百八町。』

〔…〕

竹中 初任給は一五円？

森 いえ二〇円、ほかの人よりちょっと多かったです。天引きが一二円、ニコニコ貯金というのをさせられてました。寛寿郎さんのお母さんが、女の子が大金を持ってちゃんけないっていうんです。

お小遣い七円、大金じゃないわね（笑）。でも当時の女の子としては、まああのゼイタクだったんですよ、映画みてお汁粉をたべて、生意気をしようと思ったら円タクにだって乗れました。仕事もたのしかったですね。寛プロは女優日照りで娘役は私一人で間にあわしちゃう、全作品に出ているんじゃないかしら？（竹中、一五六頁―一五七頁）

また日劇ダンシングチーム出身の市川弥生（一九三二年―二〇

〇八年）の場合も（小澤、ムーラン・ルージュ新宿座に「踊り子」として昭和一二年二月入座し、初月給一四円貰う」が、通勤費約一〇円が手当されず、手取は約四円である（『ムーラン・ルージュの青春』）。

註⑥ 資料【AWA○○○○○一―一二四】デジタル画像は拠点HP「共同研究」内の報告欄 (<http://www.waseda.jp/prj-kyodo-empaku/research/H28.html#04>) を参照せよ。

註⑦ 資料【AWA○○○○○一―一三三】の全文は以下の通りである。「中川慶子」「四拾五」は黒インクの書入、楽員と係員が宿泊する東宝第二寄宿舎の住所「六」「八」も同様に手書の修正である。また「高木四郎」「鹽谷幸太郎」は原文通りの引用である。

昭和十七年七月

寶塚歌劇團
理事長 林 藤之輔

生徒 中川慶子

保護者 殿

拜啓 炎暑之候貴家益々御隆昌之段お慶び申上ます

東京寶塚劇場八月は花組にて左記日程により公演致しますから何卒御諒承願ひます就きましては現下の非常時を充分理解して各方面に一層注意すべき様特に御本人に申傳へ下さいます様御願致します

追而 出張中の御手當として左記の通り東京にて御渡し致します

一金 四拾五 圓也

○ — ○ — ○ — ○ — ○ —

東京寶塚劇場花組出張公演日程（昭和十七年八月）

一、日 程

七月廿九日 大阪驛發 特急午前九時（かもめ） 豫定

全 東京驛着 午后五時二十分 豫定

七月三十日。三十一日。舞臺稽古

八月一日より全月三十日迄平日一回（午后五時半）土、日

曜二回（十二時半五時半）開演

八月卅一日 東京驛發特急（つばめ）午后五時大阪驛着

定

一、集合場所

午前八時二十分迄に阪急梅田驛座席券賣場前集合（各自到

着ト同時ニ姓名ヲ生徒監迄申出ヅルコト）

一、生徒宿所

東京市芝區芝公園五號地ノ十二

東 寶 寄 宿 舎 （電芝二七二四）

樂員

宿所 東京市芝區芝公園六號地ノ八 東寶第二寄宿舎

係員

一、組 織 舞臺監督 水 田 茂、鹽 谷 幸太郎、

高 木 四 郎、高 崎 邦 祐、

音樂指揮 山 根 久 雄、岡 政 雄、

生徒監督 守 澤 彌三郎、

引用一覽

淡島千景著／坂尻昌平／志村三代子／御園生涼子／鷺谷花編『淡島

千景 女優というプリズム』（青弓社、二〇〇九年）。

小澤公平『我が人生に悔いなし』（<https://ozawakouhei.wordpress.com/>）、二〇一七年九月一六日閲覧。

竹中芳『鞍馬天狗のおじさんは』（筑摩書房、一九九二年「一九七

六年」）。

『ムーラン・ルージュの青春』、田中重幸監督、大隅充脚本、幻野

プロ製作、二〇一一年。DVD（幻野プロ、二〇一三年）。

鷺谷花「淡島千景年譜」、淡島千景著／坂尻昌平／志村三代子／御

園生涼子／鷺谷花編著『淡島千景 女優というプリズム』（青

弓社、二〇〇九年）、三八五頁―四二二頁。

付記

被引用中の算用数字を漢数字に統一するなど、読み易さに配慮した点に加え、淡島千景資料の引用に際し、改行の位置など、止むを得ずに体裁を変更した点をお断りする。